

兵庫県香港経済交流事務所 Hyogo Business & Tourism Centre (HK)

変化し続ける香港でビジネスチャンス

香港は1997年の中国への返還以降、周囲からさまざまな影響を受けてきましたが、アジアの中心に位置する地理的優位性と一国二制度という高度自治の下で経済の自由度を生かして成長を続けています。東京都の半分程度の面積に約750万人が暮らし、中国本土からも含めた香港への年間旅客数は約6,500万人を記録するなど活気があふれエネルギーに満ちた国際都市は、アジアを視野に入れたビジネスチャンスを見つけるのに格好の場所となっています。

(1) 日本との高い親和性

香港では日本製品が幅広く受け入れられており、日本産食品は日系スーパーだけでなく、地元スーパーでも普通に見掛けられます。特に野菜や果物は品質にこだわりのある香港人には不可欠なものとなっており、「日本産＝安全安心、信頼、高品質」というイメージが定着。また、地元資本も含めて約1,500軒の日本料理店があり、多彩な文化が交錯する中で大きな存在感を示しています。

香港人の日本好きは旅行データにも表れており、2019年に日本を訪れた香港人旅客数は前年比3.8%増の229万人で過去最高を記録。国・地域別では第4位。反政府抗議活動で空港閉鎖等の混乱もありましたが影響はほとんど見られず、750万の人口規模から考えても人気の高さは明らかです。

(2) 充実するインフラ整備

2018年9月に香港－深圳－広州を結ぶ高速鉄道が開通し、同年10月には香港－マカオ－珠海を結ぶ世界最長の海上橋「港珠澳大橋（全長55km）」の通行が開始されるなど、中国本土との移動の利便性が格段に高まりました。また、地下鉄の延伸工事が続いているほか、香港国際空港では3本目の滑走路建設が2024年の完成目標に



拡張工事が続く香港国際空港

進められており、世界最大の航空貨物ターミナルの能力拡大がさらなる経済発展に寄与することが期待されます。

(3) 大湾区発展計画

2019年2月に発表された「広東・香港・マカオ大湾区発展計画」では、区域内でのヒト・モノ・カネの移動をできるだけ自由化し、2035年までに世界的ベイエリアの完成を目指すこととしています。東京やニューヨーク、サンフランシスコのベイエリアをしるぐ規模となり、香港の発展に新たな推進力が与えられることになります。

この計画の中で香港は「国際金融・海運・貿易センター」「国際空港ハブ」「オフショア人民元業務ハブ」「ハイエンドサービス」「イノベーション・科学技術」という5つの発展方向性が明示されました。これまでの香港が持っている強みを、総人口7,100万人、総面積5万6,000km²の巨大ベイエリアで生かすことで、ビジネスチャンスの可能性が大きく広がります。

一般的に香港は市場参入のハードルがそれほど高くないといわれていますが、それゆえに世界の企業が集まり、競争は激しくなっています。富裕層が多く、消費意欲も強いが、消費者やバイヤーは目が肥えており、商品、サービスに対して高い価値を見いださなければビジネスにつながらないことも多いようです。

中国本土やASEANへのゲートウェイとしての役割を有する香港では、年間を通して世界から注目される展示会や見本市が数多く開催されており、世界最大級、アジア最大級の展示会もいくつかあります。市場調査やプロモーションの一つの方法として展示会を活用されてみてはいかがでしょうか。

当事務所では現地情報の提供や展示会に関するサポートなどで県内企業・団体の活動を支援していきます。



50万人が来場する香港フードエキスポ

兵庫県香港経済交流事務所 〈Hyogo Business & Tourism Centre (HK)〉

Unit 506, 5/F, Tower 2, Lippo Centre, 89 Queensway, Admiralty, Hong Kong

TEL +852-2110-4570 URL <http://www.hyogobtc.com.hk>